

AXIS S3008 Recorder

ユーザーマニュアル

デバイスについて

AXIS S3008 Recorder は、コンパクトなネットワークビデオレコーダーで、簡単に設置できるPoEスイッチが内蔵されています。この装置には、監視グレードのハードドライブが搭載されています。また、ビデオ映像を簡単にエクスポートできるUSBポートも搭載しています。レコーダーには3種類のモデルがあり、それぞれ2 TB、4 TBまたは8 TBのハードドライブを内蔵しています。

レコーダーには何台のカメラを接続することができますか？

レコーダーのPoEスイッチには、最大8台の装置を接続できます。

レコーダーはカメラにどれぐらいの電力を供給できますか？

Power over Ethernet (PoE) には以下の制限があります：

- レコーダーは、PoEで最大8台までのデバイスに電力を供給することができます。
- 使用可能な合計電力量:
 - 2TBおよび4TB: 65W
 - 8TB: 60W
- 各ネットワークポートは、PoEポート (PSE) で最大15.4 W (PoEクラス3) をサポートし、カメラ側 (PD) で12.95 Wに対応しています。
- スイッチは、接続された装置のPoE Classに基づいてPoE電力を割り当てます。

ブラウザーサポート

Windows®

- Chrome™ (推奨)
- Firefox®
- Edge®

OS X®

- Chrome™ (推奨)
- Safari®

その他

- Chrome™
- Firefox®

デバイスの使用方法の詳細については、[ドキュメンテーション | Axis Communications](#)でマニュアルを参照してください。

推奨されるブラウザーの詳細な情報については、[Axis OS ブラウザーサポート | Axis Communications](#)にアクセスしてください。

使用に当たって

注

システムの設定を行うときはインターネットアクセスが必要です。

1. My Axisアカウントを登録する, on page 3
2. ハードウェアのインストール, on page 3
3. AXIS Camera Station Edgeのインストール, on page 3
4. サイトを作成する, on page 3
5. モバイルアプリをインストールする, on page 4

インストールが完了したら:

- システム内のすべてのAxisデバイスには最新のAXIS OSが搭載されています。
- すべての装置にはパスワードがあります。
- デフォルト設定での録画が有効です。
- リモートアクセスが使用できます。

My Axisアカウントを登録する

1. axis.com/my-axis/loginでMy Axisアカウントを登録します。
2. 多要素認証 (MFA) 方法として認証アプリ (TOTP) またはEメールのいずれか1つを選択し、画面に表示される指示に従います。MFAは、ユーザーの本人確認のためのさらなるレイヤーを追加するセキュリティシステムです。

ハードウェアのインストール

1. カメラのハードウェアをインストールします。
2. LANポート経由でレコーダーをネットワークに接続します。
3. カメラをレコーダー内蔵のPoEスイッチまたは外部PoEスイッチに接続します。
4. コンピューターをレコーダーと同じネットワークに接続します。
5. 電源をレコーダーに接続します。

重要

まずレコーダーに電源コードを接続し、電源ケーブルをコンセントに接続する必要があります。

6. 録画やカメラが起動するまで数分間待つてから、続行してください。

▲ 注意

オーバーヒートを避けるため、換気の良い環境にレコーダーを置き、レコーダーの周りに十分なスペースを確保してください。

AXIS Camera Station Edgeのインストール

1. axis.com/products/axis-camera-station-edgelに移動し、[Download (ダウンロード)] をクリックします。
2. 設定ファイルを開き、設定アシスタントに従います。
3. My Axisアカウントでサインインします。

サイトを作成する

1. AXIS Camera Station Edgeを起動します。
2. My Axisアカウントでサインインします。

3. **[Create new site (新規サイトの作成)]** をクリックして、サイト名を付けます。
4. **[Next (次へ)]** をクリックします。
5. サイトに追加するデバイスを選択します。
6. **[Next (次へ)]** をクリックします。
7. ストレージを選択します。
8. **[Next (次へ)]** をクリックします。
9. **[Install (インストール)]** をクリックし、AXIS Camera Station Edgeがデバイスを設定するまで待ちます。設定の完了までに数分かかる場合があります。

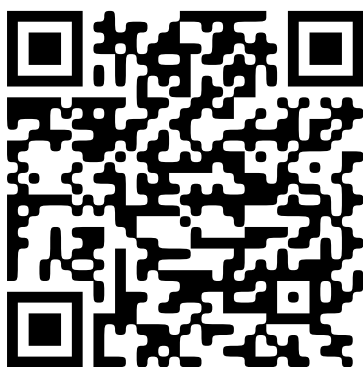
インストールが完了したら:

- システム内のすべてのAxisデバイスには最新のAXIS OSが搭載されています。
- すべてのデバイスには、最低限のセキュリティ要件を満たすパスワードが設定されています。
- デフォルト設定での録画が有効です。
- リモートアクセスが使用できます。

モバイルアプリをインストールする

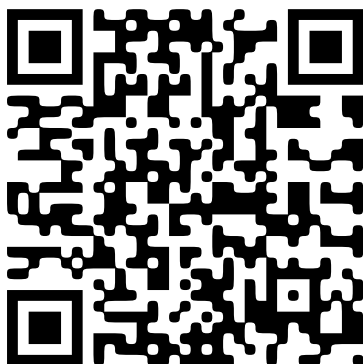
Android版

[Download (ダウンロード)] をクリックするか、次のQR Code®をスキャンします。



iOS版

[Download (ダウンロード)] をクリックするか、次のQR Codeをスキャンします。



AXIS Camera Station Edgeモバイルアプリを開き、Axisの認証情報でログインします。

My Axisアカウントをお持ちでない場合は、axis.com/my-axisにアクセスして新しいアカウントを登録できます。

QRコードは、日本およびその他の国々におけるデンソーウェーブ株式会社の登録商標です。

webインターフェース

AXIS OS搭載デバイスのWebインターフェースで利用可能なすべての機能と設定については、*AXIS OSウェブインターフェースのヘルプ*を参照してください。

デバイスを構成する

電力の割り当て

レコーダーはポートごとに一定の電力を確保しています。予約電力の合計は合計電力容量を超えることはできません。レコーダーが使用可能な電力以上の電力を確保しようとした場合、ポートには電力が供給されません。これにより、接続されているすべての装置に確実に電源が供給されるようになります。

PoE電源は、次の方法で接続されているデバイスに割り当てることができます。

- **PoE Class** — 各ポートは、接続された装置のPoE Classに従って、自動的に確保する電力量を決定します。
- **LLDP** — 各ポートは、LLDPプロトコルを使用してPoE情報を交換することによって、確保する電力量を決定します。

注

LLDPを使用した電源の割り当ては、ファームウェア9.80、またはそれ以降の対応しているデバイス、およびファームウェア 10.2以降のAXIS S3008 Recorderでのみ機能します。

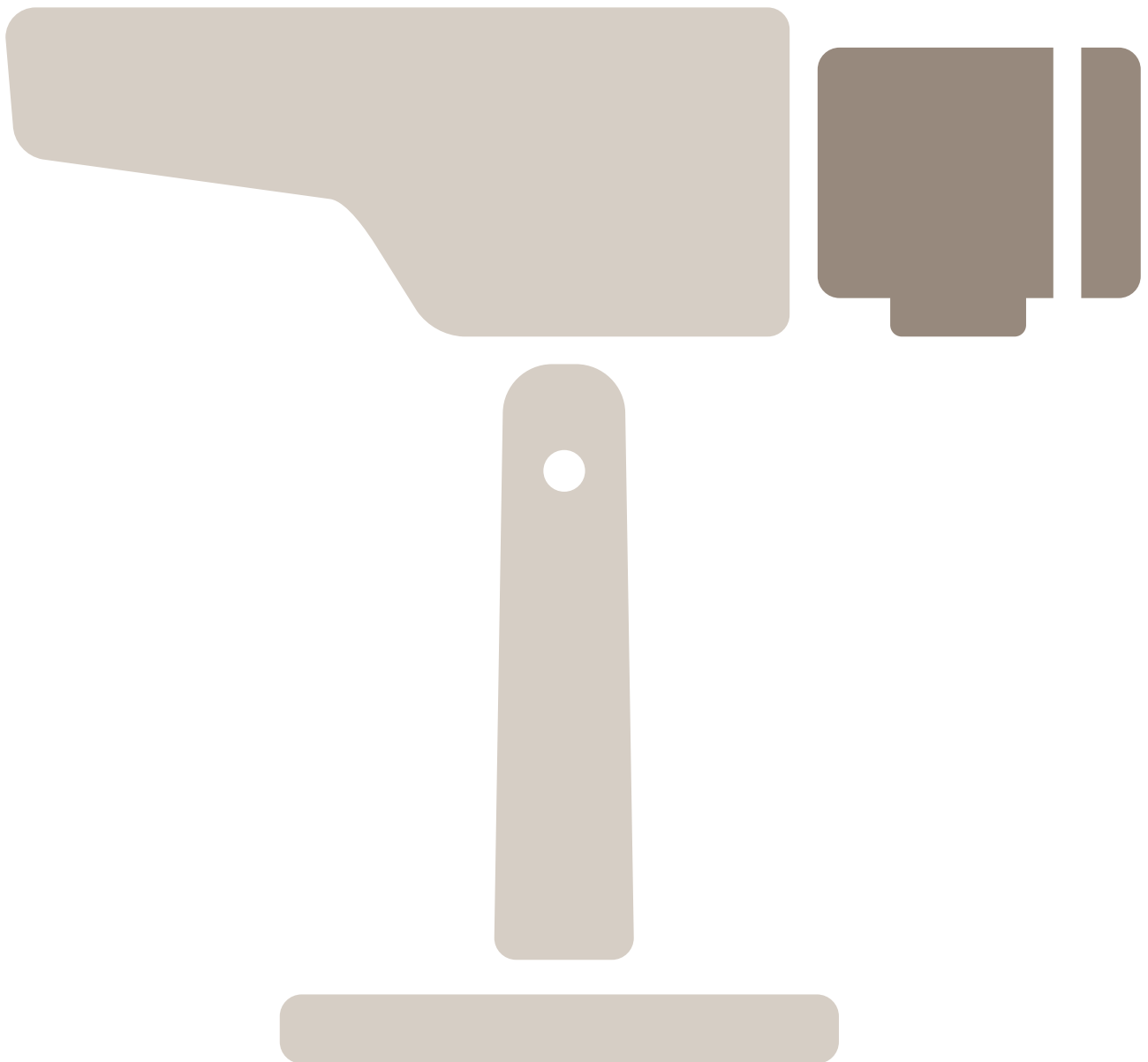
LLDPは常にAXIS S3008 Recorderでアクティブとなりますが、接続された装置でアクティブにされている必要があります。接続された装置でLLDPがオフになっている、または対応していない場合は、代わりにPoE Classの確保が使用されます。

PoE装置でLLDPをオンにするには、以下を参照してください。

1. デバイスのWebページを開きます。
2. **Settings (設定) > System (システム) > Plain config (プレーン設定) > Network (ネットワーク)**に移動します。
3. **LLDP POE**で、**LLDP Send Max PoE (LLDPで最大PoEを送信)** チェックボックスを選択します。

例:

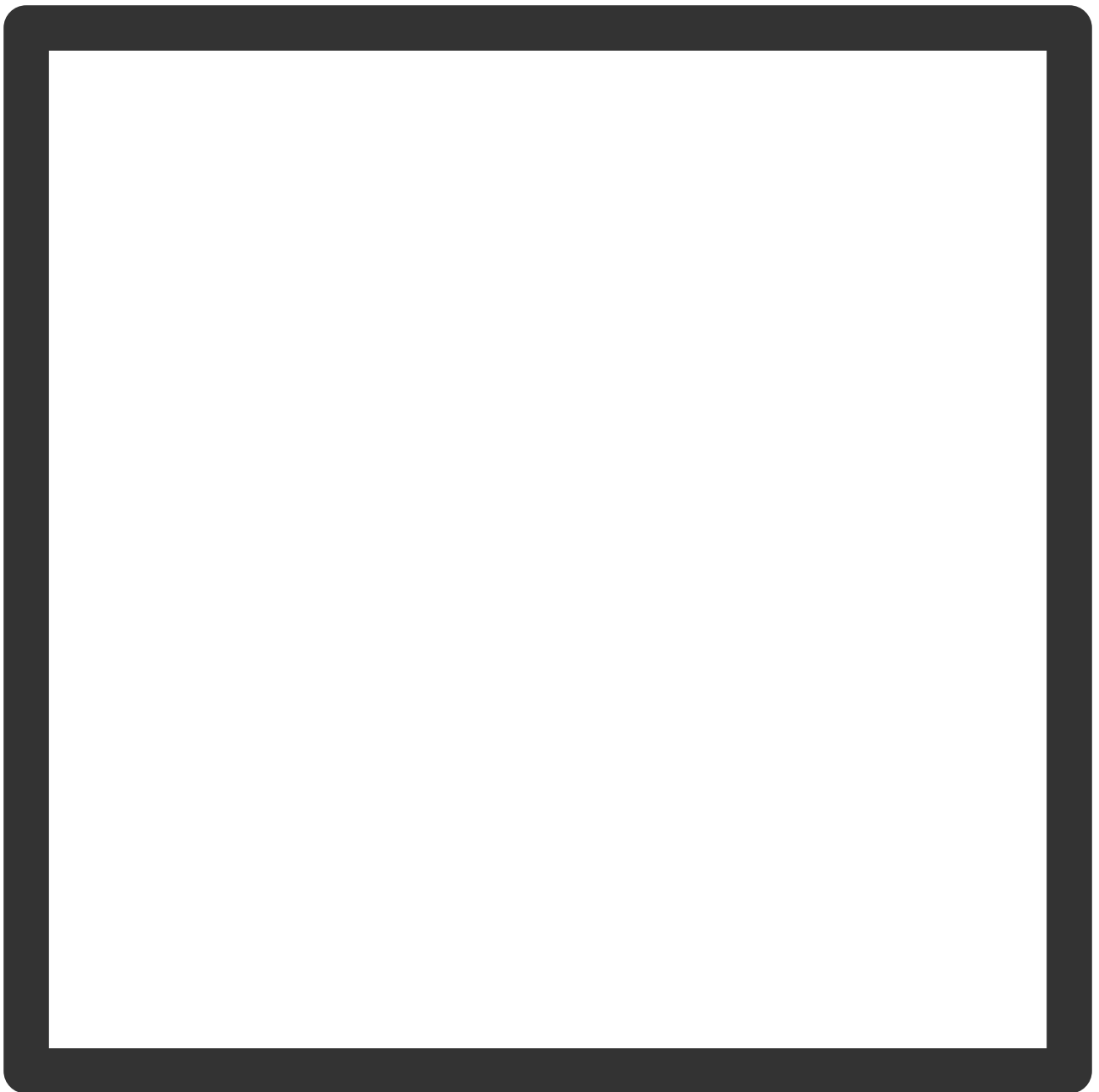
この例では、AXIS S3008 Recorderの合計電源容量は 65 Wです。



PoE クラス 2デバイス。要求する電力は7 Wですが、実際消費する電力は5 Wです。



PoE Class 3装置。要求する電力は15.5 Wですが、実際消費する電力は7.5 Wです。



確保する電力。

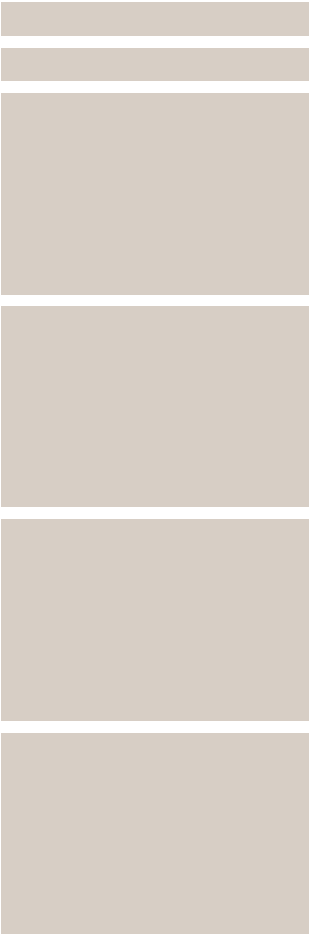
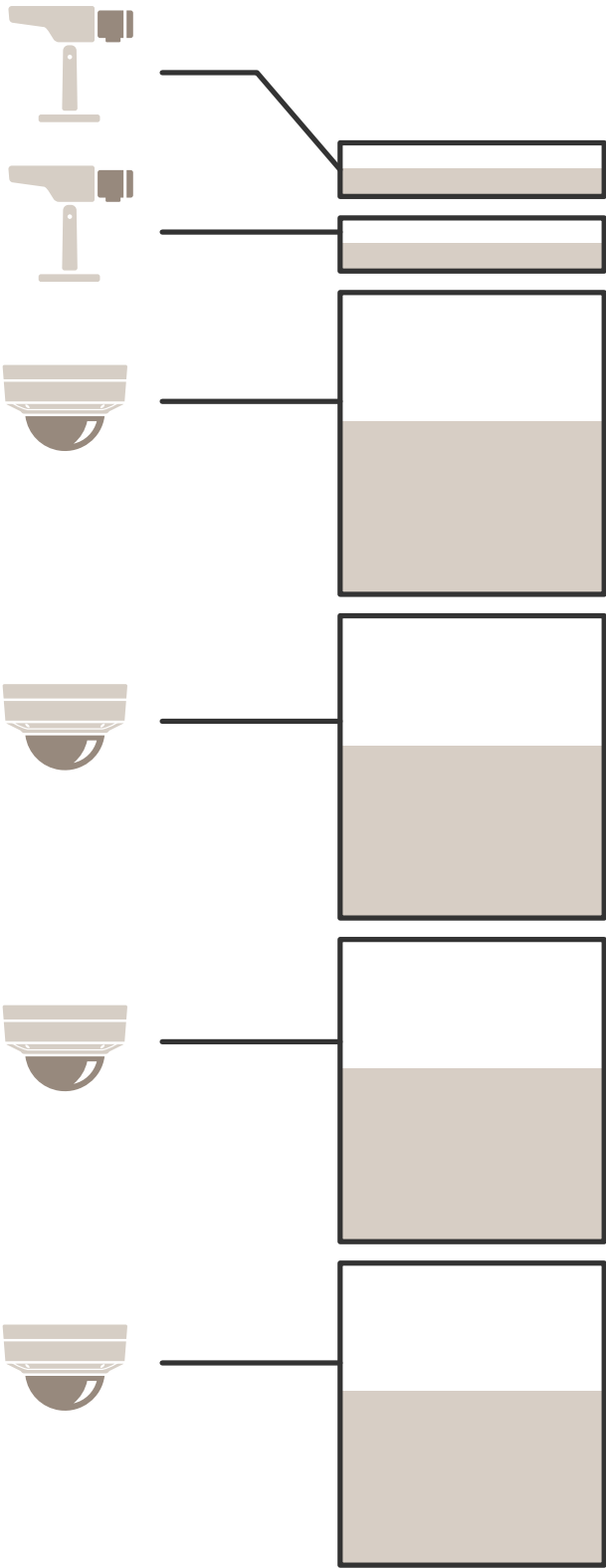


実際の消費電力。

PoE Classによる電力の割り当て

確保された電力

実際の消費電力



- 各ポートは、デバイスのPoEクラスに従って電力量を確保します。
- レコーダーは、2つのPoE クラス 3 デバイスと4つのPoE クラス 2 デバイスに電力を供給できます。
- 確保可能な最大電力は $(2 \times 15.5) + (4 \times 7) = 59 \text{ W}$ です。
- 実際に消費される電力は、 $(2 \times 7.5) + (4 \times 5) = 35 \text{ W}$ です。

LLDPによる電力配分

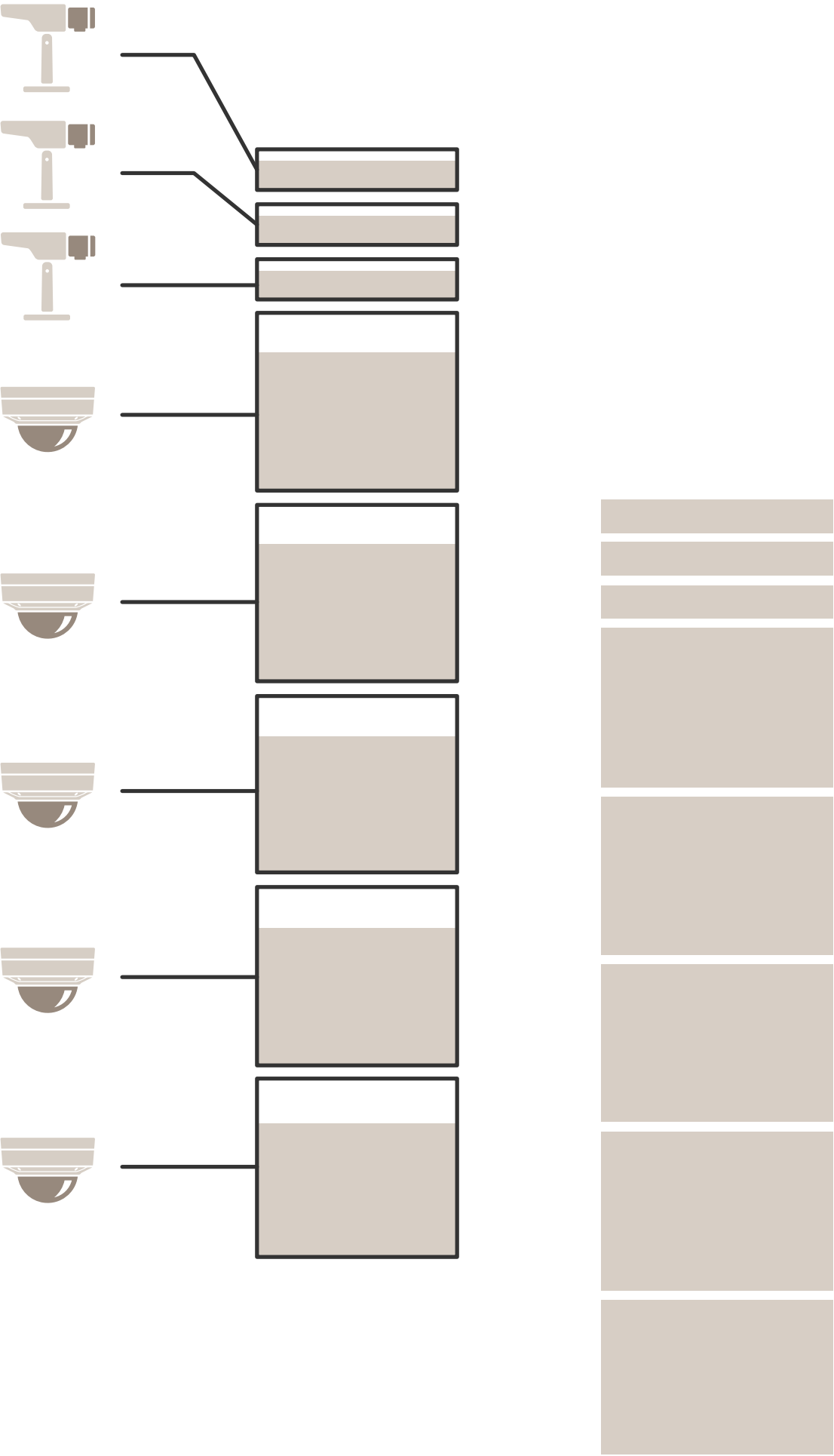
注

LLDPによる電力配分では、ネットワークケーブル上で発生し得る最悪のケースの電力損失を見込んで余分に供給されます。

PoE Class	1	2	3
最大電力カメラ	3.84	6.49	12.95
最悪の場合に備えた電源損失ケーブル	0.14	0.41	1.92
レコーダーに必要となる電力	3.98	6.90	14.87
クラス最大の電力	4.00	7.00	15.40
レコーダーで確保する電力	4 W	7 W	15.5 W

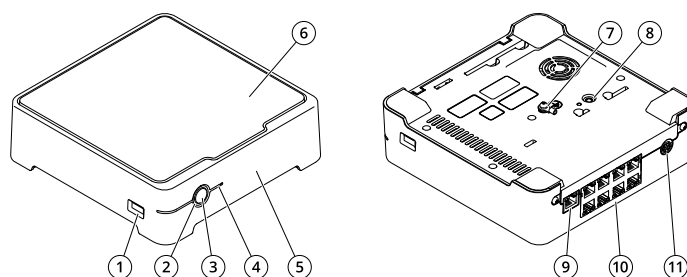
確保された電力

実際の消費電力



- 最大電力は、接続されたデバイスによって決まります。
- 各ポートは、デバイスの最大PoE電力消費量に従って電力量を確保します。
- 最大電力要件が制限の範囲内である場合、レコーダーは最大8つの装置に電力を供給できます。
- LLDPを使用したPoE クラス 3 のデバイス 8 台が確保する合計電力は、 $(8 \times 7.5) = 60 \text{ W}$ です。
- LLDPを使用したPoE クラス 3 のデバイス 8 台が実際に消費する電力は、 $(8 \times 7) = 56 \text{ W}$ です。
- これにより、PoE容量の割り当て量を厳格にすることで、接続する装置の数を増やすことができます。

製品概要



- 1 USBポート
- 2 ステータスLED
- 3 電源ボタン
- 4 ハードドライブLED
- 5 アラームブザー
- 6 ハードドライブ
- 7 アース
- 8 コントロールボタン
- 9 LANポート
- 10 PoEポート (8x)
- 11 電源入力

電源ボタン

- レコーダーをシャットダウンするには、電源ボタンを長押しすると、簡単な音が鳴ります。
- ブザーを無音にするには、電源ボタンを少し押します。

コントロールボタン

コントロールボタンは、以下の用途で使します。

- 製品を工場出荷時の設定にリセットする。レコーダーをハードリセットする, *on page 19*を参照してください。
- インターネット経由でワンクリッククラウド接続 (O3C) サービスに接続します。接続するには、ステータスLEDが緑色に点滅するまで約3秒間ボタンを押し続けます。

トラブルシューティング

ステータスLEDは、以下の情報を提供します:

ステータスLED	説明
緑	レコーダーがオンになっており、ステータスは正常です。
オレンジ	レコーダーの起動中か、ファームウェアのアップグレード中です。LEDインジケーターが緑色になるまで待機してください。
赤	これは、PoEの予算を超えたことを意味している場合があります。装置をレコーダーに接続したばかりの場合は、もう一度削除してみてください。PoEに関する制約事項の詳細については、レコーダーはカメラにどれぐらいの電力を供給できますか？, on page 2を参照してください。

ハードドライブLEDは、以下の情報を提供します。

ハードドライブLED	説明
緑	データがハードドライブに書き込まれると、LEDは緑色に点滅します。
赤	録画中断が発生しました。詳細については、[System (システム)] > [Storage (ストレージ)] にアクセスしてください。

この理由でブザーは次のように聞こえます。

- PoE供給容量を超過しています。デバイスをレコーダーに接続したばかりの場合は、もう一度削除してみてください。PoEに関する制約事項の詳細については、レコーダーはカメラにどれぐらいの電力を供給できますか？, on page 2を参照してください。

注

電源ボタンを短く押して、ブザーを止めることができます。

レコーダーがシャットダウンします。

- レコーダーが深刻なオーバーヒート状態になっています。

技術的な問題、ヒント、解決策

問題	解決策
録画が利用できません。	一般的な問題を解決する, on page 19に移動します。
カメラに接続できません。	一般的な問題を解決する, on page 19に移動します。
“No contact (接続できません)” というエラー通知が表示されます。	一般的な問題を解決する, on page 19に移動します。
モバイルアプリに自分のサイトが表示されません。	AXIS Companionモバイルアプリのバージョンが4であることを確認してください。

一般的な問題を解決する

再起動、デバイスの設定またはリセットを行う前に、システムレポートを保存することをお勧めします。

Axisサポートに問い合わせる, on page 20を参照してください。

1. カメラとレコーダーに電力が供給されていることを確認します。
2. インターネットに接続されていることを確認します。
3. ネットワークが動作していることを確認します。
4. リモートでない場合は、カメラがコンピューターと同じネットワークに接続されていることを確認します。

まだ動作しませんか？

5. カメラ、レコーダー、およびAXIS Companionデスクトップアプリに最新のファームウェアとソフトウェア更新プログラムがインストールされていることを確認してください。
「AXIS OSをアップグレードする, on page 19」を参照してください。
6. AXIS Companionデスクトップアプリを再起動します。
7. カメラとレコーダーを再起動します。

まだ動作しませんか？

8. カメラとレコーダーのハードリセットを行って、完全に工場出荷時の設定に戻します。
レコーダーをハードリセットする, on page 19を参照してください。
9. リセットしたカメラをもう一度サイトに追加します。

まだ動作しませんか？

10. 最新のドライバーを使用してグラフィックカードをアップデートしてください。

まだ動作しませんか？

11. システムレポートを保存し、Axisのテクニカルサポートに連絡してください。
Axisサポートに問い合わせる, on page 20を参照してください。

AXIS OSをアップグレードする

新しいデバイスソフトウェアの更新により、最新の改善された一連の機能、機能、およびセキュリティ強化が提供されます。

1. リーダー装置のwebインターフェースに移動します。
2. [Maintenance (メンテナンス)] > [AXIS OS upgrade (AXIS OSのアップグレード)] に移動し、[Upgrade (アップグレード)] をクリックします。
3. 画面上の指示に従ってください。

レコーダーをハードリセットする

重要

レコーダーは電源がオンになっている間は慎重に動かしてください。突然動かしたり衝撃を与えたりすると、ハードドライブが破損する場合があります。

注

- ハードリセットを行うと、IPアドレスを含むすべての設定がリセットされます。
 - ハードリセットを行っても、録画は削除されません。
1. レコーダーの電源を切る：
レコーダーの前面にある電源ボタンを、ピープ音が聞こえるまで4〜5秒間押し続けます。
 2. レコーダーがオフになるまで待ってから、裏返してコントロールボタンにアクセスします。

3. コントロールボタンを押し続けます。電源ボタンを押して放し、レコーダーを起動します。コントロールボタンを15～30秒間押し、LEDインジケーターがオレンジ色に光ったらリセットボタンを放します。
4. レコーダーを所定の場所に慎重に戻します。
5. プロセスが完了すると、ステータスLEDが緑色に変わります。これで本製品は工場出荷時の設定にリセットされました。ネットワーク上にDHCPサーバーがない場合、装置のIPアドレスのデフォルトは次のいずれかになります。
 - **AXIS OS 12.0以降の装置:** リンクローカルアドレスサブネット (169.254.0.0/16) から取得
 - **AXIS OS 11.11以前の装置:** 192.168.0.90/24
6. レコーダーに接続されている装置をリセットします。
7. ハードドライブが暗号化されている場合は、レコーダーをリセットしてから手動でマウントする必要があります。
 - 7.1. 装置のwebインターフェースに移動します。
 - 7.2. [System (システム)] > [Storage (ストレージ)] に移動し、[Mount (マウント)] をクリックします。
 - 7.3. ハードドライブを暗号化する際に使用する暗号化パスワードを入力します。

すべての録画を消去する方法

1. 装置のwebインターフェースで、[System (システム)] > [Storage (ストレージ)] に移動します。
2. [Format (フォーマット)] を選択し、[Use tool (ツールを使用)] をクリックします。

注

この手順では、ハードドライブからすべての録画が消去されますが、レコーダーとサイトの設定は変更されません。

Axisサポートに問い合わせる

トラブルシューティングを試みても問題が解消されない場合や、問題の解決策が見つからない場合は、*Axis support*にお問い合わせください。

システムレポートを保存する:

1. AXIS S3008 Recorderで、 > [Save system report (システムレポートを保存する)] の順に移動します。
2. Axisヘルプデスクに新しいサポート案件を登録する際には、システムレポートを添付してください。

さらに支援が必要ですか？

参考リンク

- [AXIS Companion ユーザーマニュアル](#)

サポートに問い合わせる

さらにサポートが必要な場合は、axis.com/supportにアクセスしてください。

サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティは、リスクを最小限に抑えながら、健全な製品ライフサイクルを支援します。当社のサイバーセキュリティへの取り組みに関する詳細や文書は、axis.com/about-axis/cybersecurityで確認できます。以下のサイバーセキュリティガイドラインに従って、Axisから製品に関するセキュリティ通知を受け取り、安全なライフサイクルと利用停止を確保するために製品を設定してください。

Axis Trust Centerでは、Axisが実施するセキュリティコンプライアンス、透明性、データ保護、およびプライバシーについての情報をご覧ください。

脆弱性の管理

Axisは、共通脆弱性識別子 (CVE) 採番機関 (CNA)です。当社は、セキュリティリスクを最小限に抑えるため、当社のデバイス、ソフトウェア、およびサービスの脆弱性の特定と修正において業界標準に従って対応しています。当社の脆弱性管理ポリシーに関する詳細や、脆弱性の報告については、axis.com/vulnerability-managementを参照してください。

セキュリティ通知

axis.com/security-notification-serviceでAxisのセキュリティ通知メールを受け取る用に設定してください。お使いのAxis製品に関する脆弱性、関連するセキュリティアドバイザリー、およびその他のセキュリティ関連事項に関する情報を送信いたします。

安全な製品ライフサイクル管理

Axisは、安全なライフサイクル管理を通じて、製品のライフサイクル全体でリスクを最小限に抑えています。help.axis.comに掲載されているハードニングガイドには、Axis製品のより安全な設定と操作に関する情報、および以下の情報が含まれています。

安全な初回使用 - Axis製品は、高度な保護機能がデフォルトで組み込まれているため、初回使用時から安全な初期化と暗号化された通信が可能です。

使用目的とよくある設定ミス - 当社のガイドには、Axis製品の使用目的について記載されています。これには、避けるべきよくあるセキュリティ関連の誤った使用や設定ミスについても含まれています。

脆弱性の管理とサプライチェーンの透明性 - 脆弱性の開示およびサプライチェーンの透明性向上を目的として、ソフトウェアのリリースごとに、axis.comでソフトウェア部品表 (SBOM) を公開しています。

利用停止とデータの安全な消去 - 製品のライフサイクル終了時に安全に利用を停止するために、工場出荷時の設定にリセットしてください。これにより、設定、保存されたデータ、およびセンシティブな情報が消去されます。

T10152902_ja

2026-03 (M35.2)

© 2020 – 2026 Axis Communications AB